

バンコクの社会史

―― 20世紀前半期における都市衛生――

平成20年入学

派遣先国：タイ

Nipaporn Ratchatapattanakul

キーワード：バンコク、社会史、公衆衛生、多民族社会、タイ

対象とする問題の概要

バンコクの歴史に関する研究の多くは、土地利用や都市の拡大など経済発展の側面にのみ着目して論じており、社会史に焦点を当てた研究はほとんどない。また都市環境に関する課題を検討する場合でも、王室が行う近代化という枠組みの中で説明される傾向が強く、住民の生活の実態や住民の活動は看過されてきた。こうした既存の研究の問題を踏まえ、本研究は、市民の役割に焦点を当てながら、現地語一次資料に基づいてバンコク社会の歴史を明らかにしようとする。またバンコクは、タイ人、西洋人のみならず、中国人、インド人、など多くのエスニックグループが居住する多民族社会であり、民族間関係を無視しては住民の生活のありようも理解できない。これは東南アジアの他の植民地都市と共通する特徴ともいえるが、他方タイ社会は独立国であるが故の特徴ももっており、両方の側面からアプローチする。

研究目的

本研究は、19世紀末期から20世紀半ばにかけて、バンコク市内で発生した都市衛生問題に着目し、中央政府および自治体の行政・政策と、市民自身による諸活動の双方から検討することにより、バンコクという都市社会の特徴を歴史的に明らかにすることを目的とする。18世紀末に王都として設立されたバンコクは「東洋のベニス」とも形容される都市であったが、19世紀半ば以降、特に華南から大量の移民が流入してきたため、人口の増加とともに、伝染病やゴミ、下水など衛生に関する問題が深刻化した。こうした問題に対して、新来の移民も含む住民はどのように対応してきたのであろうか。とりわけ自治的な組織や住民団体をいかなる形で組織してきたのか、そして「バンコク市民」という意識はいつ頃、どのように形成されてきたのかという点に注目しながら、その社会のありようを検討したい。

フィールドワークから得られた知見について

今回のフィールドワークはバンコクにある国立図書館と国立文書館に所蔵されている首都省や外務省、内務省などの政府資料や新聞、雑誌などの一次資料を中心に調査している。19世紀末期当時の資料によって、公衆衛生ということは、「環境に関する公衆衛生」と「人間に関する公衆衛生」の二つのグループに分けられる。「環境に関する公衆衛生」はゴミ、下水、便所などの汚物の撤去に関することであり、「人間に関する公衆衛生」は流行性の伝染病の発生・拡大の防止と医療制度を扱うことなどという人の身体に直接的なことである。

「環境に関する公衆衛生」の知見は、19世紀末期当時の訴状等の資料によって、衛生管理地域以外に居住する人々にとっては、衛生問題の処理は集落の役割であり、政府の担当ではないと考えられていたことが伺える。さらに、衛生問題を処理する集落は、中国人やケーク（ヒンドゥー教の人またイスラム教の人）などの移民である。

一方、1891年の4カ所の市立病院の病人統計によれば、一年間3082人の病人は存在した。当時、バンコク市内の人口調査はまだ作成されなかったため、その人数は市内人口と比較して多数また少数か判断できなかった。ただ、1905年に調査した政府の医療機関に努めてない市内の医者統計によって、タイ伝統的と西洋的医者を合わせて、632人も存在した。さらに、1920年代当時の新聞によって、新聞に広告を出した薬屋や診療所などの民間医療機関は市内に48カ所があった。それでは、「人間に関する公衆衛生」は、民間の役割が高いことが分かってきた。

今回のフィールドワークの調査の結論は、19世紀末期に環境と人間に関する公衆衛生に対する政府の役割があまり高くないと言えた。バンコクにおける公衆衛生に関する研究の多くの説を異にするという結論する。

今後の展開・反省点

今回のフィールドワークは廣肇病院（1877年設立）や華僑報徳善堂（1905年設立）などの移民自身による衛生・健康の組織に着目して研究を進めたいと思った。ただ、国立図書館と国立文書館に所蔵されている資料はあまりなくて、各病院から取り受けた資料は130年記念本と100年記念本しか受けなかった。一方、St.Louisという病院の資料を利用することは、連絡の手続きが複雑なので、出版された資料だけ集めた。また、シリラート病院の文書館に所蔵されている資料もまだ調べてない。

さらに、国立図書館と国立文書館に所蔵されている統計類の資料も毎年続かなくて、当時の公衆衛生の変化を一般的説明することはできなかった。それで、様々な資料に基づいて判断する手法で研究する。



図1 「こんな病人が公衆道路に寝ているのは恐ろしいだ。」
1920年代当時の新聞の公衆衛生に関する風刺画



図2 廣肇病院（1877年設立）と同じ場所にある華僑廟に飾っている廣肇會館の委員会の写真



図3 華僑報德善堂（1905年設立）の入り口。
天華医院は廟の後ろに建築された。

